





一 上島浦を渡入津佐と入るは分りきり大船と安夫不相り  
如原上人出舟躍を足踏こつて安抄子唄をなす側長は安  
人天龍と云ふ抄子踏踊に仕舞やん是は漢入と統ゆり  
古河菩提院抄子もなすは通御しや

一 胡弓形と琵琶の似く胴鼓とち短く法白く危しはなわん  
りやしおと道幅は方短厚をふれ少板おるゆえと云ふは  
ゆき は胡弓や西亜にもなき環海 南亞東利加極里人おつて人形  
は圓く國おんく各トウチカヒ 楯丸と云ふ人けり相らへ能原やんは云海とある切やんを  
横文字も傳へ候如く抄りてを建てるやん

一 舟形も執も三つと月と云ふ人へ傳へははつラス人へ月人  
あるにやうおんやんは云ふ人へはは流人よ  
一 飛角と云ふ形かへりいん人帯力と切掛も云々踏敷

中じ志似るやうたはじと云ふもおまじ踏下

一 相術乃志似るやうと云ふかへり持と云ふ人へ人の節抄を  
案を人七切形かへり為見よ

一 二拾年以ふと云ふいキリス人ヨルクの黄朱我年、乃の  
てきひの修入軍書 是は抄中を ありし海流し合戦傳は能お

一 方ヨルクと云ふやうに形し用ひをう、は流しキリスと云ふは流  
連居はは合戦ヨルク御村はは自派かへり抄子大軍書續  
ゆりも例のびんも云ふは流しはは流しはは流しはは流し

一 近年イキリスの法船と云ふ地と云ふは形も云ふは地  
内イキリスの所くはは流しはは流しはは流しはは流し  
水と云ふは流しはは流しはは流しはは流しはは流しはは流し  
一 一は流しはは流しはは流しはは流しはは流しはは流し



此格不之流くともしりて見申す番と掃除申し取張  
板との洗すの事ある道もも存くゆが承拾部之とも  
ゆが歎く事と入主如く年と掛りて下り

船を三念し掛りし船子日本船同方船し船十倍も船あり  
下りておぬ事し既紗波もも船をコッル色にゆが

船をヨリ完結申し如く為之に之階造り船を子屋を  
是の自便とゆが九女し女子之捨りて妻之に縁画  
之ぬ存しゆが入之てむ盤と掛り物為是く妻終りて  
夏ゆゆがゆが妻思懐海と掛りてゆが

漂流人上流方か良室主人天の御命と書くと謝りしと書  
良徳氏大目所後を主人におとすと掛りて懐く主人  
しも書懐海と掛りぬ九女ゆがゆがゆが主人天女ゆがゆが

し云葉船乞河の船子云後之魚ゆが和語とハ必使ゆが  
ゆがとハ掛りゆがゆがゆが

葡萄

コウビイ音もゆが葉院イキリスよお留りて河ゆがゆが  
おし居ぬゆが煙草も音も天日人礼授りて用不遊遊ゆが  
ゆがおとくゆがイキリスゆが老ゆがゆがゆがゆがゆがゆが  
ゆが入ソつゆが音も船中細ゆがゆが煙草音ゆがゆがハイキリス  
ゆがゆがハヨリゆが老もゆが音も使取ゆがゆが船も煙草と掛り  
ゆが

言信阿蘭陀説くハ遠くは通河ゆがゆが先年酒米ハイキリス  
ゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆが  
ゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆが  
ゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆが

船中ゆがゆが塩場ゆがゆがゆが今付晒場ゆがゆがゆがゆが

裁 々々の定是ハ縁以賜シ他を製物ハ大塚橋倉一  
乃之論公の如申す存食之ハ如風味也之ハ不喫也也  
之は僅分既以時々食糧として用事者之ハ通河の業況  
人之端幅自亦ハ是ハ小覺難凡之用切法也之ハ  
右是聞信公執之也之ハ

乙三月

伊勢殿 二月廿四日 長十帝之御下

ナニ云ハ書付

浦之書以  
大久保因情書

唯女月中之云以通見所和列所着波之海之船系  
切見所和之組与力以ハ希通河船組光出風取次才  
之と神遊系案出之遊之ハ南ハ以之と夫遊子紙通并之紙  
細得仕令漂流人と返所ハ人得而己之遊之と極子  
不之ハ之南邊田ハ川遊ハ以之と之ハ在合中ハ波取紙  
遊之出ハ之及暮ハ之ハ浦不仕否紙亦ハ以之紙ハ  
之ハ是玉取ハ之ハ之ハ之ハ行海ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ  
遊之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ  
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ  
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ  
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ